



祝辞
川崎市多摩区
佐藤直樹 区長

「つながる新聞」第100号の発行、誠に
おめでとうございます。また、日頃、地域の
絆を深める活動を続けてこられた「ながさ
わまちづくり協議会」の皆様に、心より感謝申し
上げます。

私は長沢に隣接する菅生ヶ丘で育ち、子供の頃遊ん
だ平瀬川や長沢諏訪社、高校サッカー部の仲間と走っ
た旧フコク生命グランド周辺の坂を、とても懐かしと思
い出しますし、今回多摩区長として100号発行にあたり
お祝いの機会をいただいたことに長沢の皆様とのご縁
を感じております。

今後も「つながる新聞」によって、長沢の魅力と温かさ
が広がり、さらに、長沢の地域の皆様のつながり、「和」
が広まることをご祈念申し上げます。



挨拶
長沢まちづくり協議会
末吉 一夫



処暑の候、皆様におかれましてはます
ますご健勝のこととお慶び申し上げます。

「ながさわつながる新聞」創刊100号
を発行することが出来たことは、購読
者、情報提供者、関係者の皆様のご理解、ご協力をい
ただき、続けることが出来たことに心より感謝申し
上げます。

内容につきましては地域の出来事、イベント情報、歴
史等お知らせさせていただき、地域のつながりを生か
せる新聞を目指して参りました。

今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げあ
いさつとさせていただきます。



『お祝いのメッセージ』



長沢商店会
原山修 会長

創刊100 号おめでとうご
ざいます。編集員の皆さま
におかれましては、毎号毎
号大変な思いで発行されて
いるのだと思います。お察しいたします。

長沢商店会が活性化するためには、まず、長沢
地域が元気で、楽しく、賑わっていなければなりませ
ん。

そのために長沢商店会では、年間を通してさま
ざまな活動を行っています。

いつも「つながる新聞」では、当商店会の活動
などを紹介していただき感謝しております。

商店会に元気と賑わい活力が湧けば必ず街の
活性化につながると信じています。つながる新聞
とともに歩んでいきたいと思っています。



諏訪社崇敬会
松澤武雄 会長

つながる新聞、創刊100
号おめでとうございます。継
続は力とよく言われますが
正にこの努力は尊敬に値す
る偉業と思います。つながる新聞は人、地域、更
に学校、そして商店をつなぐ新聞であるとお聞
きしております。更にまた、ながさわ地域で守り
継承すべきは清らかな平瀬川と伝統文化行事
である盆踊り大会、夏祭り、秋祭り、音楽祭、年初
めの「どんど焼き」などの取材は広範囲に活動さ
れた証しであると新聞から読み取れます。

ながさわの未来は人々の心と心が強く通い合
う地になるようにつながる新聞が一役を担われ
ますよう期待をしております。



長沢自治会
米山福吉 会長

創刊100号誠ににおめで
とうございます。

100号発刊の今日まで心
を込めて編集に当たられた
ご努力の賜物であると存じます。

発刊に関われた皆様の熱意とご労苦に深く
敬意を表します。

さて、長沢自治会としても自治会イベントの告
知や報告など紙面に掲載させていただき、会員
のみならず、広範囲に当自治会の活動が伝わる
のはうれしいことです。

紙面から地域のつながりが確実にあると確信
しております。今後も200号を目指してご活躍く
ださい。

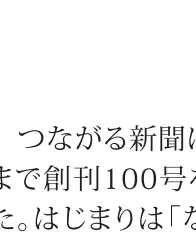


編集
高橋秀一

「つながる新聞」は、多方
面のご協力をいただき創
刊100号を迎えることがで
きました。関わった皆様に
感謝いたします。

創刊は、2014年8月20日ですから11年前に
なります。100号も8月20日合わせたかったの
ですが、1週間のびてしまいました。これも素人仕
事だとご理解いただければ幸いです。

創刊から弊社スタッフが編集を担当してい
ます。プロ仕様の紙面ではないことをご理解いた
だければ幸いです。



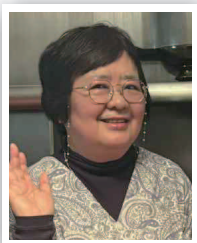
印刷
原山昇

つながる新聞はおかげさ
まで創刊100号を迎えまし
た。はじめは「ながさわ魅
力伝え隊」。

少しずつ読者も増え、今では長沢まちづくり
協議会が発行を引き継ぎ、地域に笑顔を届けて
います。

これまで応援してくださった皆さま、本当にあ
りがとうございます。

これからも印刷を通じて、地域と人をつなぐ
お手伝いを続けていきます。



にゃあちゃん
篠崎美和子 様

「つながる新聞」発刊100
号おめでとうございます。

長沢地区に住み始めて10
年、4年前から短文とマンガ
を担当しています。合わせて地域行事にも微力
ながらお手伝いさせていただいています。

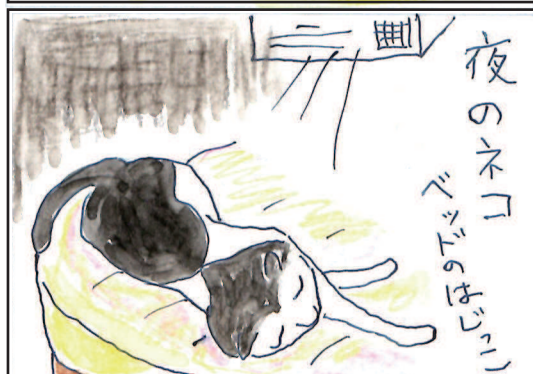
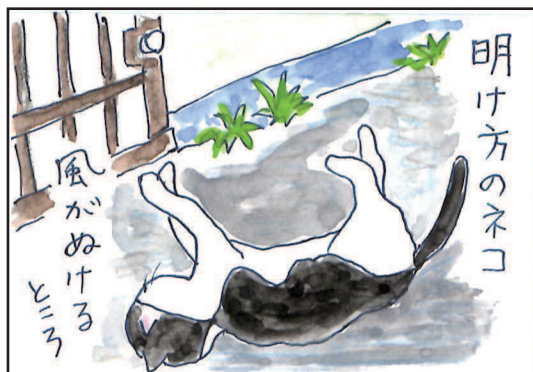
諏訪社の初詣、盆踊り、祭礼には多くの方で
賑わって驚くほどです。

これは地元の方のご尽力と私のような移住者
を受け入れてくださる懐の深さがあると感じま
す。

これからも伝統ある行事に老若男女が集う活
気ある地域であるよう願います。



瑞蓮書道教室
(長沢団地バス停側)



子どもの表現力を育むリトミック

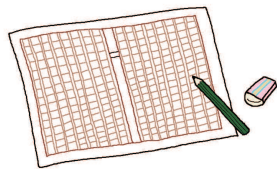
こつがい音楽教室

リトミック・ピアノ



教室 多摩区長沢

piano0522.ai@gmail.com



つながる新聞(沿革)

創刊 2014.8.20

長沢商店会の若いメンバーで構成された「ながさわ魅力伝え隊」が発行人となって創刊された。

2019.5.1(49号)

新元号にあわせ、令和元年記念号として発刊。

2019.7.17(50号)

創刊50号から発行を「長沢まちづくり協議会」と変更。

2020.3.3 / 2020. 3. 24(クイズ号外)

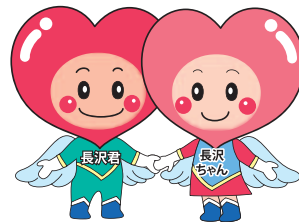
新型コロナ対策として、全国すべての小中学校、高校が臨時休校となった。休みに中に楽しめるクイズの掲載した号外を発刊した。

2022.6.25(69号)

ねこマンガ連載スタート。

2025.8.27(100号)

100号発刊。



空気の綺麗な高原の夜。ヨガマットを敷いて大の字に寝転ぶ。満天の星に包まれた。

天の川高原に敷くヨガマット

作 風の木原(高石在住)

滝山団地を訪ねてその2

にやあちゃん(長沢在住)

その人の木という考え方が。今ほもうあまり耳にしないが、女の子が生まれたら庭に桐の木を植えてお嫁入りの時にその木で作った筆筒を持たせるとか。子ども時分に大きな農家で五月のお節句で立派な鯉のぼりをあげていた。その支柱は当主の木でその昔これと決めた良い木を隣の林から切り出し、大八車で運んできたそう。

「あれは俺の木で、縁の下にまだあるはずだ」と、話す少し誇らしげな顔を思い出す。

庶民派の私は、家の近くの木をなんとなく自分の木と決めて、折にふれ、「オハヨー」とか「おーい」などと心の中で挨拶したりする。

滝山団地ができる前、通学路として歩いた西側のはじは雑木林だった。カーブした先に起伏のある雑木林でその奥は赤松の林だった。団地の西側、3街区と呼ばれる所を歩くと大昔の記憶が蘇る。

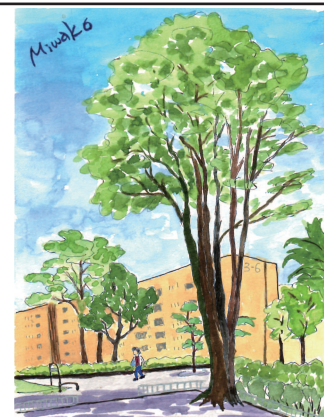
どーんと落ち込んだ窪地は広い公園になっているし、あちこちに枝葉を広げる木々は、団地が真新しい時から5階建ての団地に負けない大木ぞろいだ。

公園奥の集会所周辺に松の木が並んで見えた。赤茶色のかさぶたが重なり合うような特徴のある松。この赤松は松林の木かもしれない。ランドセルを背に登下校する幼

かった私を見守ってくれていた木かもしれない！と思うと「久しぶり」なんて言いたい気分になってくる。すっかりかつての雑木林の中にいるような気分になっていたその時、頭上に音が響いてきた。

ベランダで洗濯物をはたく音、窓を開け閉めする音、それらの生活音に以前訪れた何軒かの住まいを思い出す。団地は外観は同じだが、ドアの奥はそれぞれの暮らしが広がっていた。1軒1軒が全く異なる空間で、不思議な気すらした覚えがある。

人気がない団地の広場に立つ。耳に入る大小の生活音と共に、半世紀にわたる多くの暮らしの気配がうずまいていくように感じられた。雑木林から変わったこのマンモス団地は今後どうなるのだろうか。ぼんやり考えていたら、しばらくその場を離れられなかった。



「つながる新聞」はカラー版でお楽しみください!!

「つながる新聞」は、「長沢まちづくり協議会」のホームページ『らぶながさわ』でカラー版や地域情報がご覧できます。ぜひ、ご活用ください。

<https://love-nagasawa.org>



長沢囃子保存会 会員募集



この地に長く続くお囃子で、長沢(長沢、南生田、東百合丘地域)と一緒に盛り上げていきませんか。長沢囃子保存会は、鎌倉時代創建の歴史と伝統ある神社「諏訪社」のお囃子です。

小学生以上、年齢・性別は問いません。まずは見学から、お気軽にどうぞ。



稽古日

子ども囃子(小学1年から) 土曜日14:00-16:00(月2回)
大人囃子 日曜日19:00-21:00(月2回)
(場所) 諏訪社 社務所

☎ 090-8464-0392(米山)

編集後記

「つながる新聞」は、印刷・配布をASA南生田。編集を高橋工務店が協力し、長沢まちづくり協議会が発行する地域情報紙です。

現在は、長沢地域の情報を中心に発行していますが、西生田・寺尾台、菅馬場…などの情報も発信していきたいと思っています。

情報のご提供とご寄稿いただける方のご連絡をお待ちしております。



らぶながさわ

TEL 044-976-0540

ASA南生田